



藪椿
花言葉「謙遜の美德」

第1176回例会挨拶

会長 生田 弘之

皆さんこんにちは、本日もお元気にご出席を頂き有難うございます。大寒は過ぎましたがまだまだ寒い日が続き、風邪など引かないよう気をつけて頂きたいと思います。

さて今年はNHKの大河ドラマ「平清盛」が始まっております。、清盛は兵庫県に縁が深く、特に神戸は住み着いていたところとしてよく知られています。今から900年以上前にこの地でどんな出来事があったのか思いを馳せると何か楽しくなってくるようです。

兵庫県は日本の縮図であると言われています。北は日本海、南は瀬戸内海に面し県の中央部は1000m級の山々が南北を分けるように連なっています。それと旧国名で言う「摂津」「播磨」「但馬」「丹波」「淡路」の5つの区域からなり、それぞれ異なる文化や歴史を持った地域がうまく融合され、今日の県を形成していると思います。言葉一つを取り上げましても「摂津弁」は大阪弁をベースに、「播州弁」と「但馬弁」は中国地方の方言の影響を受け「丹波弁」は京ことば、「淡路弁」は四国の方言の影響が強いとされています。気候はというと北部は日本海側気候、南部は瀬戸内海式気候とはっきり分かれています。では人間性はどうだろうそれぞれの地域によって住む人々の性格が少しずつ違うような気がします。このような兵庫県ですが住めば都で本当に居心地がよく住みやすく自分に合っている最高の地だと思っています。このような地域をこれからもこよなく愛し、少しでも地域の発展のために貢献していきたいと考えています。



オオイヌノフグリ
この花咲いたら春はもうすぐ…
花言葉「信頼」「清らか」

点訳用パソコンの贈呈に感謝

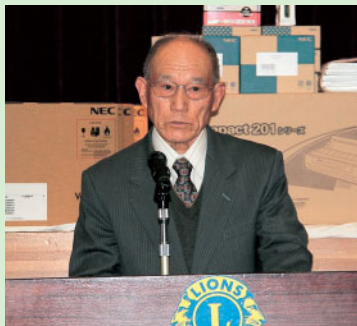
西脇市社会福祉協議会 会長 大内 信男 様

この度西脇ライオンズクラブ様のご厚意により、西脇市社会福祉協議会に点訳用パソコン、点訳専用ソフト10セットのほかプリンターなどを贈呈いただきありがとうございました。

これらの機器は、視覚障がい者の方々に市広報、新聞記事、小説等々の点字翻訳を昭和50年から37年間にわたって続けている「西脇点訳友の会（福井敬朗会長・会員22名）」に使用していただくことになっており、点訳友の会では旧式のパソコンが一気に新型に更新でき、点訳の能率が上がると大変喜んでおられます。

今回、西脇ライオンズクラブでは、ライオンズクラブの国際機関であるLCIF財団の一般援助金を活用し、この多額の支援が実現したとお聞きしております。平素から西脇ライオンズクラブでは、バザーの開催、会員からの持ちより資金を元に毎年のように多額の品物を社協に寄贈いただき聴覚障がい者の団体や要約筆記ボランティアの活動等で活用させていただいております。

西脇市社会福祉協議会は、市民すべてが会員という趣旨のもと会費のご協力をいただきながら、民生児童委員、ボランティアとともに超高齢化社会の今こそ求められている市民の絆を維持向上していく各種の事業を展開しています。西脇ライオンズクラブの皆様におかれましても団体、大口会員等各方面からご支援いただいております、改めてお礼を申し上げますとともに今後ともご支援いただけますようお願い申し上げます。



「点訳友の会」会長 福井敬朗氏



大内信男氏



ゲストスピーチ

“LCIFと共に地域社会に貢献”

LCIF地区開発コーディネーター

有野 勇 三木中央LC

日頃はLCIFに多大なご協力をいただき誠に有り難うございます。昨年は東日本大震災や台風12号・15号の水害また海外ではトルコ地震・タイの大水害等々大きな大災害にLCIFは皆さまの善意を届けさせて頂きました。

この度は視覚障がい者に対する自立支援事業として社会福祉法人西脇市社会福祉協議会所管「西脇点訳友の会」へ点字コンピューターや関連機材等々を西脇ライオンズクラブとLCIFが協力して寄贈されました。

この事業は視覚障がい者の方々への点字ボランティアの活動の充実を図り障がい者の方々に大きく寄与する事業であり目のご不自由な方々の為に点訳し、情報を届けることにより日常生活の支援や個人・団体から依頼を受けたものや地域の出版物・情報の点訳などに貢献します、市内外の小中高等学校からの依頼で点字体験学習を行うなど“西脇点訳友の会”の活動を支援地域に貢献できる事業は、大変意義深いことであります。

1925年国際大会での基調講演でヘレン・ケラー女史が“暗闇と戦う盲人の騎士（ナイト）”となってください”と呼びかけられました。

これを期に世界中のライオンズのメンバーが感動して、視力保護活動や治療を奉仕活動の最重要課題の1つに加えた事は有名な話です。



義援金贈呈

私自身も48歳の時に糖尿病が原因で眼底出血し右目を失明・左目も失明の宣告を受け心沈む毎日でしたが左目は治療処置し視力を保ち右目は1年後に手術し光明を得ました。目が如何に大切か身をもって体験した一人です。

ライオンズクラブ国際協会が提唱している地域社会への貢献と弱者の方々に大きな希望の光を与える素晴らしい事業だと思います。

来期はCN50地域と西脇ライオンズクラブの益々のご発展をお祈りいたします、ありがとうございました。

終わりのない奉仕に“Challenge!”

視覚障がい者支援事業

保健奉仕委員会委員長 徳岡 武義

西脇ライオンズクラブが支援事業の一環として、昨年度デフピープル助成金による聴覚障がい者支援、引き続き本年度はLCIF援助金による視覚障がい者支援と連続して地域社会に貢献出来た事は大変意義深いことであります。

委員会活動としては、LCIF交付金を10000ドル申請し承認されたことは、当クラブとして初めての申請であったこと、地域社会に対する支援活動資金確保として、大きな成果であります。

この度のLCIF交付金は、会員の1000ドルMJF献金と、会員全員の20ド献金の協力のおかげと感謝しております。そしてチャリティーバザーの協力についても、忘れてはならない事と感謝しております。ありがとうございました。

最後になりましたが、この度のLCIF交付金申請について、ご指導頂きましたL有野LCIFコーディネーターには、心より感謝いたします。ありがとうございました。



神戸新聞 平成24年2月8日